

シニア自然大学校祭 記念公開講演会

13:10 開会

司会 中西 克己

13:15~講演

『関西地方に迫りくる地震：
その仕組みと備え』

北海道大学 名誉教授 宇井 忠英 先生

平成 29 年 11 月 3 日
場所 国立民俗学博物館
第4セミナー室
主催 認定NPO法人
シニア自然大学校
後援 朝日新聞社

1995年の阪神淡路大震災以降、ざつと挙げてみても鳥取西部（2000）・十勝沖（2003）・新潟県中越（2004）・東日本（2011）・三陸沖（2012）・熊本（2016）と多発する地震。加えて火山の噴火、気候変動と私たちを取り巻く世界は日々その異変を伝えてくる。迫り来る最大M9規模が想定される南海トラフ巨大地震。私たちはどう対処すればよいのか、解答を求めて「みんなく」に集った聴衆は59名。スライドとVTRを交えての講演は、以下の5点に整理され、淡々とした語り口ながら内容の圧倒的な吸引力に皆、寂として声なく聴きいった。



熊本地震で生じた横ずれ断層（益城町）



宇井忠英 先生

1940年東京生まれ。理学博士。北海道大学名誉教授・環境防災総合政策研究機構理事

◆地震の基礎知識

地震の発生は断層（広がりを持った面）の両側で岩盤がずれていくことで起こるが、日本列島には主要な活断層が100位ある。又、地下に隠れていると思われる活断層も含めると約2,000。地震を発生する場所は直下型地震＝内陸型地震と海溝型地震＝プレート型地震。後者が津波を伴う。

◆関西地方を襲う直下型地震と海溝型地震

次の南海地震は遅くとも21世紀の内には推定出来るが、直前の予知は不可能だ。防災上の見地から過去の実績よりも早く、規模も大きい可能性を配慮すべきだ。南海トラフの巨大地震発生の場合、震度5弱以上の範囲は下の想定図のように殆ど列島を覆う。

◆地震に伴う災害

巨大地震の発生は建造物（高架橋・ビル・民家・擁壁）を倒壊させるのみならず、被害が広範囲に及ぶ為、物流が停まる。宅地造成地での地すべりや平野部の地盤の液状化は勿論、住宅や石油コンビナート等での火災の発生も考慮しなければならない。

◆地震と津波に日頃からどう備えるか

南海トラフ想定最悪M9.1の場合、想定浸水域は東日本の1.8倍、震災死は32万人とも言われる。備えが大切だ。①日頃の行動範囲の安全性を確かめておく（市街地は看板・ブロック塀・自動販売機等、地震の際のリスクが一杯ある）。又、大阪市内では発生後90分以内には津波（危険地・・・大阪・阪神地区では海拔10m未満）避難完了を。安全な避難場所を知っておく必要がある。②自宅では家具を固定し、飲料水（一人1日3リットルを2週間分）・食糧のローリングストックが肝要だ。プラスチックの食器・ラップ・紙タオル、調理用の熱源も要る。③避難場所は家族間で2カ所以上の共有を。等々。

◆地震が発生した時どうするか

即座に身の安全を保ち、揺れが収まったらご近所と助け合い、皆で消火・救出活動をする。地震が発生した際の行政機関の支援は限られる。市民それぞれがどれほど備えているかが災害軽減の鍵である。

講演を拝聴して帰る道すがら、万博記念公園から賑わいが風に乗ってくる。帰路を急ぐ家族連れやカップルは明るく満ち足りた表情だ。晴れやかな好天。文化の日の平和な日常にしみじみと感謝しつつ、今日の講演を噛みしめ、地震への備えを心に固く期して帰途についた。

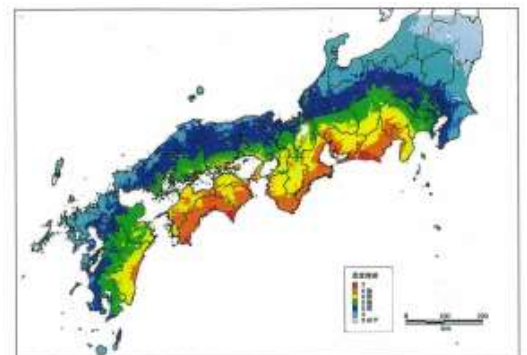


図1 最大クラスの震度分布想定



（広報 文・伊賀上 写真・石原）